

## ■事前評価シート(自然環境分科会)

## 政策目標1 自然と人が共生するまち

## 施策①重要度の高い自然環境の保全 (p10)

## 【評価できる点】

- ①「特に重要度の高い自然環境」の7地区全ての現況に関する記載があり、昨年の指摘事項(記載が一部地区しかない)が改善された。
- ②自然環境の保全のために「特に重要な自然環境」を決め、守るための取り組みを実施している点。
- ③各コア地域で、市民の協力を得、コロナ禍の中、保全活動を維持していることは評価できる。
- ④清水谷など地域のボランティア団体による保全活動が継続的に行われている。
- ⑤清水谷、赤羽根十三区、平太夫新田については、継続的に市民団体と協力して保全活動が行われている。
- ⑥各保全地区の実情に合わせた市民団体や事業者などの協働による保全活動を継続。
- ⑦指標種が多く存在する7つの拠点を中心に、積極的な管理保全活動等が実施されている。令和5年度版年次報告書では、その指標種が具体的に種名リストとして掲載されていなかった?と思われるので、後ろの方にリストぐらいのせて欲しいと思いました。どこで何が見つかったかということではなく、具体的にどんな種が指標種になっているのか、それがわかる資料です。
- ⑧北部地区緑地については、ナラ枯れ対策として危険木等の伐採と健全木への防除が実施された。
- ⑨緑のまちづくり基金に約200万円積み立てることができた(昨年度の約180万円より増加)
- ⑩緑のまちづくり基金の充実に向け取り組みが推進された。

## 【今後検討すべき課題】

- ⑪特別保全地区の指定については、活動を休止しているようであるが、期末目標を達成するため、今後の見通しを庁内、審議会等で共有する必要がある。
- ⑫特別緑地保全地区の指定の推進は難しい部分もあると思うが、期末目標の4カ所/39.7haの達成に向けて、引き続き進めていただきたい。
- ⑬各市民団体と市の間で、保全の方向性や活動内容が共有できているか、また、共通理解の上、活動が成り立っているかは、常に確認する必要がある。
- ⑭保安全管理をするためには、費用や守る行為をして下さる働き手の方(報酬の有無問わず)が必要となると思います。先日視察をさせていただいた(清水谷を愛する会事務局)の村中様の視察の質問内容の回答では茅ヶ崎市からの助成金がないとのこと。費用が出ないようなら、ボランティアさん達が増えるPRや今以上に企業や学校等と連携して働き手の派遣によりお手伝いができる取り組みを増やさないと、今、やってくださっている方々が大変だと思います。また、そんな現状で保全活動を頑張っていらっしゃるのに、地域住民の方の理解が得られていないと感じられているようなら、それはいち早く検討すべき課題だと思います。
- ⑮有志の方々の保全活動を市が後押しし協働できる予算の確保。植物の勢いは想像以上と思われます。枯木を防ぐためにも対策が急務と思われます。
- ⑯ボランティア団体に対する資金面の援助、人的パワーアップに向け、一般市民の協力・地元企業のサポート・緑のまちづくり基金の活用などを図っていく必要がある。
- ⑰行谷において実施した希少種の移植について、その後の現状をモニタリングする必要がある。

- ⑱清水谷のナラ枯れはかなり進んでいるため、引き続き対応を進めていく必要がある。
- ⑲ナラ枯れ伐採林が放置され処理が進んでいないのでバイオマス発電への利用のため企業などのサポートの検討。
- ⑳緑のまちづくり基金の更なる推進に向け市民へのアピール、企業のサポート体制の構築。
- ㉑緑のまちづくり基金は、緑地の維持や管理に資金が配分される流れになっていますが、7つの拠点を維持管理されている団体にその一部が助成されているのでしょうか？ 前回の清水谷の視察では、事前コメントとして支援があまりないというようなコメントがあったことが気にかかりました。

## 施策②生きものの生息・生育環境の保全 (p14)

### 【評価できる点】

- ①プレ調査の実施は、現状把握とともに、人材育成の面で評価できる。
- ②自然環境評価調査のプレ調査を実施しR 5年度の本調査に向け推進できた。
- ③自然環境評価調査のプレ調査や外来種の除去、開発が行われる箇所の事前調査と指標種の移植など、多くの活動が再開された。
- ④調査員の養成や駆除活動、その他情報発信が行われている。特に、外来種の駆除活動では、市民の有志の方々に加え、大学生も活動に参加している点は素晴らしいと思いました。保全活動の多くは、地元の高齢者の方々のお力によって支えられている形が一般的と思われるが、その流れに若い方々の力が加わることによってさらに活性化につながると思いました。
- ⑤生き物や自然環境について調査・情報発信、拡散防止、必要に応じた移植を実施していること。
- ⑥外来種の駆除、保全種の移植は地道ではあるが継続して行われている。
- ⑦すべてにおいてこれからも維持継続を希望します。特に若い方々への情報発信として、Instagram等 SNS を上手に活用したい。
- ⑧景観みどり課が公式Instagramを開設した。Instagramは若い人も含め広く普及していることから、情報発信手段として有効ではないか。フォロワー数などの推移も1つの指標になる。
- ⑨庁内会議を端緒とする指標種の移植等は、庁内会議が有効に機能した事例として評価できる。

### 【今後検討すべき課題】

- ⑩5年ごとに実施予定の自然環境影響調査について、調査設計等、準備を進める必要がある。
- ⑪自然環境評価を定期的に継続的に調査している例は特筆されるので（タウンニュース参照）更に充実した活動にするため、資金面でのサポート（市の財政から支援、地元企業の参画等）と人的パワー面の援助を検討。これらにより現況値「更新なし」から各指標の良化を図る。
- ⑫これからも積極的な自然環境調査を。→調査員の養成。
- ⑬市民の方々に状況を理解してもらう情報発信を。
- ⑭情報を発信しているInstagramもフォロワー数が多いわけでもなく、配信数も不定期で多くないため、せっかく情報を発信する場なのに、活用ができていなくもったいないと思いました。
- ⑮SNS等で外来種に関する情報発信がなされていますが、それを見た市民の方々の行動に関する変化や実際に自身で外来種駆除をやった成果（写真等）を収集する形が整うともっと効果や現状を反映した結果になるのではないかと思います。
- ⑯指標種の移植後のモニタリング状況はどうなっているのか。

- ⑰緑化ガイドラインの作成に向けた推進。
- ⑱緑化ガイドラインの作成のスケジュール再考の検討

### 施策③生物多様性の保全に向けた理解の促進 (p16)

#### 【評価できる点】

- ①すべてにおいてこれからも維持継続してほしい。特に生物多様性に関する情報発信。視覚的にも分かりやすい内容が目にとまりやすい。
- ②講座や視察会を実施することで、市民参加型になり、参加した方は興味や関心・理解が深められる点。
- ③生物多様性に対する理解のため講座、講演会、動画配信などによる周知を図った。
- ④観察会や講演会、情報発信等が複数行われている。
- ⑤対面での市民講座が再開され、併せて動画ライブラリーの公開などの情報発信も実施された。
- ⑥総合学習等で開催された講座への職員派遣も昨年度より増加している。(昨年7回)
- ⑦広報紙での連載や、Youtubeやインスタグラムなどの新しいツールによる広報活動の展開。
- ⑧動画ライブラリーの再生回数等の実績の掲載。こうした指標を参考に今後の情報発信のテーマ等に活かすと良いのでは。
- ⑨広報ちがさきに市内の自然環境の紹介をしている点。多様な媒体に情報を掲載するのは良い。
- ⑩「茅ヶ崎の緑を未来に」を広報に掲載し市民への周知、アピールに役立っている。

#### 【今後検討すべき課題】

- ⑪意味の理解や重要だという考えの質というか、実の部分の検証が可能になるとよい。
- ⑫開催日数と参加者数からして、やっていることは良いことなのに、伝えたいことがそんなに多くの方に広まることはないと思いました。開催日数が増え、参加者が増えるとより保全に向けた理解の促進が多くの方にできると思います。
- ⑬生物多様性の保全に向けて更に具体的な取り組みを推進するためにも、生物多様性ガイドラインを作成しそれに基づく取り組み課題の明確化、定量目標の設定が必要と思う。
- ⑭保全への取り組みについて。
- ⑮この項目でまとめてある内容は市独自で計画された内容だと思われませんが、7つの拠点で活動されているそれぞれの団体(資料38-40)の活動内容も市と連携した取り組みとなるような気がしますので、それらの結果も加えることで、もっと大きな成果(参加者人数や活動者人数の増加)を示せるのではないのでしょうか?各グループへの聞き取りや集計が大変になりすぎるのでしょうか?

### 施策④公園・緑地の整備・維持管理、緑化の推進 (p20)

#### 【評価できる点】

- ①市民一人当たりの都市公園面積として数値目標を設定して政策を進めている。
- ②湘南夢わくわく公園の再整備が行われた。
- ③橋脚下の有効活用。
- ④公園の整備や維持管理など、継続的に取り組まれている。

- ⑤公園がきちんと整備され、緑地が管理されていないと住みたい場所にはならないので、茅ヶ崎市の今後の発展のためにも引き続きよろしくをお願いします。
- ⑥公園愛護会等と市が協調し、事業を進めている点。
- ⑦公園、緑地の整備・維持管理に向け地域住民と一体となった活動は評価できる。

**【今後検討すべき課題】**

- ⑧施策指標でいう「都市公園」は、緑の保全の指標として適切か、今後、検証していく必要がある。
- ⑨数値目標を立てて進めていくことは評価をする上でわかりやすいが、面積を高めるだけでなく、公園の緑の質（どのような樹種が植栽されているのか等）にも着目した目標があるともっと良いのではないかと思いました。7つの拠点以外に、公園緑地などは生物多様性や緑の回廊・コリドー的な役割も兼ねていると思われるので、管理や緑化、植栽時には「質」にも配慮した方が良いと思われます。
- ⑩都市公園の市民一人当たりの面積の増加に向けた取り組みが必要。茅ヶ崎市は人口が微増しているため、一人当たりの公園面積の値の増加を目指すためには、何等かの工夫が必要。
- ⑪せっかくやったことがより伝わるように●月●日〇〇が掃除しました。●月●日〇〇が木を整え・草をむしりました。等がわかる看板があるとやって下さったことが目につき、管理されている場所なんだという認識ができ、安心感もわくのかと思いました。  
私は公園に日本で行くことがないのですが、韓国にいる時はよく行ききます。特に夜に利用することが多く、電気がついていてとても明るく安心して入れる空間になっていて、スポーツ器具が設置されたり、おしゃべりできるスペースが整えられていたりとても快適な公園が多いです。高齢化が進む中、年齢問わず、時間問わずで使いたくなり、せっかくの公園という公共スペースなのでたくさんの方がきちんと節度を持って使える公園が増えると良いなと思います。
- ⑫公園緑化については地震・津波などの自然災害や火災時の避難場所として、適切な緑化（シイ・タブ・カシなどの潜在自然植生）を推進していく必要がある。
- ⑬緑化に当たっては地域住民や地元企業のサポート、小中学生の苗つくりのなどにより植樹活動を推進する。
- ⑭公園は市民みなさんが気持ちよく使いたいもの。必要あればそのための工夫、具体的な策（アイデア）など。

**施策⑤河川・水辺、海岸の保全、整備（p22）**

**【評価できる点】**

- ①すべてにおいて支援したい。
- ②小出川整備促進事業において、生産組合への説明会が2回行われたこと。継続的な説明会や意見交換は重要。
- ③小出川の遊水地での希少種の移植など生物多様性に配慮した活動。
- ④小出川整備促進事業で、希少種の移植作業が行われた。
- ⑤事業に伴う希少種等の移植が実施されている。
- ⑥各河川の除草など河川の維持管理に努めた。
- ⑦適正に管理され、除草等によって維持され、海岸浸食防止対策をうっている点。

⑧茅ヶ崎漁港駐車場建設に伴い移植した海浜植物について、生育（植生？）状況を監視したこと。移植が目的でなく、種あるいは植生の保全が目的ですので、その後のモニタリングは重要です。

#### 【今後検討すべき課題】

- ⑨事業主体が市と異なる県や国である場合、綿密な情報共有と必要な主張は継続すべきだと考えます。
- ⑩小出川遊水地の湿地環境の保全・回復に向けた県との調整の継続。
- ⑪実際に市民1人1人が取り組んだことによって改善されることや、やっちはいけないことがわからないので、こういうことをしたらこうなりますよ！みたいな情報が届くと市にまかせっきりではなく、何かみんなでできるのではないかと思います。
- ⑫河川の除草、外来種の駆除、流域面積の確保などの保全整備を推進し河川の浄化による生息種の多様性を確保する。
- ⑬河川の洪水・氾濫などの自然災害に考慮した保全として河川周囲への植栽による緑化の推進。
- ⑭河川、水辺、海岸の保全、整備を広く周知。生物多様性（湿地環境）を守るためには…！？
- ⑮移植された希少種等がその後の新しい環境で定着及び繁殖できていけるのか、その後のモニタリング体制が検討されているのか、そのことが気になりました。
- ⑯希少種の移植は移植で終わらないよう経過もモニタリングする必要がある。
- ⑰移植した海浜植物の植生状況も重要であるが、一部だけでなく全体を広い視点で捉えて海浜植物の保全をはかっていく必要があるのではないかと。海岸は砂や潮の動きがある場所なので、それらの海浜植物全体への影響も考慮して保全をはかっていただきたい。

#### 施策⑥農地、森林の保全（p24）

##### 【評価できる点】

- ①すべてにおいて支援したい。
- ②農地、森林の保全を考え、支援している点。
- ③市民農園の面積が増加していることは評価できる点だと思いました。
- ④市民農園の拡充に向けた活動推進は良いので今後も続けてほしい。
- ⑤田園風景への認識や市民農園の増加は、全体的な市民意識の高まり（自然環境より「食」への関心もあるかもしれないが）として、評価できる。
- ⑥営農継続が困難な担い手と登録ボランティアのマッチングにより、耕作放棄地の未然防止が図られたこと。
- ⑦農産物PRの直売会等のイベントが行われ、地産地消が推進された。

##### 【今後検討すべき課題】

- ⑧農地、耕地面積が減少している。
- ⑨保存樹林、山林とも面積が減少していることを注視し続ける必要がある。
- ⑩申し訳ありませんが、なぜ耕地面積（野菜生産の畑？）を減少させる（348→315→313→310ha）ことが目標になっているのか、そのことが理解できませんでした。
- ⑪農地はどんどん家が建って少なくなっていると思いますが、農業をやりたい！ 家庭菜園を家庭から少し離れた場所でもちょっとだけ本格的にやりたい！等、農業関係でない方でも親しみのある場

所にでき、利用・活用ができる場所になると農業に興味のなかった方も農地のことを考えるきっかけができるのではないかと思います。

⑫森林保全については具体的な取り組み箇所、取り組み内容を明確にし推進していく必要がある。

⑬森林保全については植樹種の選定、苗づくり、植樹活動などを具体的に推進する。

⑭農地保全 → 農業の経済的な支援と収入確保（安定的な）  
→ 災害時の避難場所

⑮ここでは再掲ですが、令和3年から停止している指定について、早期の再開と、現状の相談などの件数や内容について、引き継いでいく必要がある。

## 政策目標5 環境に配慮した行動を実践するまち

### 施策⑪学校における環境教育の充実（p64）

#### 【評価できる点】

①学校でやることで学生が環境への関心向上につながるきっかけになると思うので、とても良いことだと思います。

②スクールエコアクション、出前授業など学校における環境教育の充実に向け、件数も増え活動が推進されている。

③取り組みやすく工夫されていることを期待。

大人も子どもも「きっかけ」で行動するので、果たして効果は…！？

④次年度以降の目標値を大きく更新している。

⑤小中学校が各校の取り組みを相互に参考にできるような情報共有・情報発信。

⑥出前授業の実施件数の増加（昨年は22件）。

⑦環境学習支援サイトのアクセス数は昨年よりはやや下がったものの目標値を上回る状況であること。引き続き、高い数値の維持に努めて欲しい。

#### 【今後検討すべき課題】

⑧学校単位で教えて貰い興味がふくらんだ学生達や卒業しても学びたい方が、学校の枠を超えて常に自発的に学んで関心が行動にかわるような学びの場があると良いのではと思いました。

⑨行政からの支援はそれなりに効果を上げているが、一方向にならないように小中学生が具体的な行動がとれるように活動を推進していく。

⑩具体的にはごみ拾いなどの美化、分別収集の事例勉強、どんぐりからの育苗⇒植樹活動、環境月間のポスターコンクールなど。

⑪学校関係者、教育者に環境学習の必要性を。取り組みやすくなる。

⑫事業評価に示してあるように「より積極的な情報提供が必要」であると思いました。

⑬学校関係者のニーズをくみ取り、それに合った環境学習メニューを提供していくこと。

### 施策⑫地域における環境学習機会の拡充（p66）

#### 【評価できる点】

①講座等の参加者増や新たな動画配信コンテンツの作成など。

- ②環境に関する講座、見学会、観察会、清掃活動が行われている点。
- ③コロナ禍で活動のしづらいなか、オンライン講座や動画配信などを活用し、環境学習機会の拡充が見られた。
- ④市民へ広く周知。
- ⑤環境に関する講座や見学会、観察会等の様々な活動が行われている。
- ⑥少しずつ対面での講座やイベントが再開してきている。
- ⑦動画コンテンツも引き続き配信し、効果的かつ多様な学習機会の創出に努めていただきたい。

**【今後検討すべき課題】**

- ⑧新たに設立された茅ヶ崎市博物館は、今後大きな役割を果たしていけるかと思うので、密な連携を目指して欲しい。
- ⑨興味関心が高いところといった行事に参加する情報も見つけられるのですが、見つけるまではやっていない興味関心がある人の目に入るところにどんどん情報があったら、ちょっとやってみようかな！というアクションになると思うので、もっともっと開催されていることを知って貰うことが必要だと思います。
- ⑩これに対し地域住民・自治体などの積極的な参画があまり進んでいないようなので更に具体的な活動に繋げるような取り組みが必要。まちづくり協議会への展開、協力及び活用など。地元企業による取り組みの推進とサポート体制、環境フェアでの周知。
- ⑪オンライン講座の受講率は…？（受け方を知らない人が多い。今後、さらに必要性が増すと思われる）
- ⑫コロナ禍での問題だと思われませんが、清掃活動参加者の大きな減少は気になりました。
- ⑬地域清掃・ボランティア清掃参加数の増加に向け工夫する。

**施策⑳庁内の環境意識の向上（p68）**

**【評価できる点】**

- ①率先して市役所内の方から実際に行動されている点。
- ②C－EMSの展開で職員全般の意識向上に務めた。
- ③これからも環境意識の情報の積極的な送受信と取り組みをお願いしたい。
- ④庁内の環境意識向上に向けた取り組みが多く実施されている。
- ⑤C-EMSの外部監査で、適切に運用されていると判定されたこと。
- ⑥職員提案の環境活動が実施され、表彰制度（茅ヶ崎市エコオフィス賞）で表彰・周知することは、環境意識の向上に寄与できて良い。
- ⑦重複するが庁内会議を端緒としたミチゲーションの実施。

**【今後検討すべき課題】**

- ⑧全般的な活動に加え、年度ごとの重点課題（生物多様性の理解など）を行い成果に繋げる。
- ⑨近隣の市などの優れた活動例を参考にして、茅ヶ崎市としての独自性を加味した活動の推進
- ⑩市民へもその取り組みと情報をもっと公開してはどうか。
- ⑪エネルギー消費量のみが数値として示されているが、過去の数値と比較して増加しているため、今

後3年程度で目標値（R7）を達成できるのか、現状のままでは難しいように思われました。

⑫やってみたことでこんなことが変わって、こんなことが良かったと思ったという市役所の方の声を聞いてみたいです。

⑬これも重複するが、その後のモニタリングの必要性も意識として共有できているか？

#### 施策⑭環境に配慮した活動への支援（p70）

##### 【評価できる点】

①すべての活動、支援について評価良

②いろんなかたちで支援をされている点。

③市民団体による活動についてホームページ等を通じて継続的に情報発信や周知、紹介を行っている。

④新型コロナ禍の影響の中での環境活動や養成講座を実施した。

⑤コロナ禍においても、養成講座定員に対する参加者の割合が6割を超えている点は評価できました。

⑥市民団体の活動支援やエコ事業者の増加など、支援活動を推進した。

⑦市が募集している「エコ事業者」で新たに6事業者の認定があり、3事業者の取り組みが紹介されたこと。

##### 【今後検討すべき課題】

⑧今後、next コロナ、with コロナの中、参加者をどのように確保していくか。

⑨市民団体の活動支援への資金面でのサポート（緑のまちづくり基金の有効活用など）及び事業者の参画による支援を得るなどで活動を推進させる。

⑩この活動を広く周知するため、ひとつの方法として「回覧板」で活動の周知を報告できないか。環境意識の高まりにつながれば、SNSの苦手な人たちへの情報発信に。

⑪支援をされている団体の方の支援に対する結果の声や支援している広報活動や環境測定機器の貸出し、提供を支援したことで支援する前と何が変わったか、どう変わったか、どれくらいの方が助けられたのかをもっと知ってみたいです。

#### 施策⑮環境に関する情報の発信（p72）

##### 【評価できる点】

①全面に支援したい。

②多様な媒体を用いて環境に関する情報発信や情報提供が行われた。

③SNSだけでなく、ポスター・チラシなども積極的に活用して情報発信している。

④広報紙、ちがさきエコネットなど種々の媒体での環境情報の発信や環境フェアなどの活動。

⑤広報紙やホームページ、SNS等の様々な手段による情報発信が行われている。近年の広報は電子化によるものが増えてきているが、広報紙等の紙ベースのものも残されているのはありがたいことです。

⑥今どきのやり方のSNSやLINEでも情報を発信している点。

⑦LINEの新たな活用方法は評価できる。新しい取り組みへの発想自体が重要である。



⑧公式 LINE で欲しい情報が選択できるようになり、環境分野の情報が効率的に発信できるようになったこと。欲しい人に欲しい情報が届くのは良いので、さらに周知していく。

**【今後検討すべき課題】**

⑨情報発信数の減に対して、アクセス数は増加している結果、「不満」が増加していることは自明かと思える。十分は情報発信を実施する意識づくり、体制づくりが必要であり、それを維持する必要がある。

⑩私もよく見ていますが、SNS も LINE も不定期ではなく一定の間隔で配信されたり、楽しみになるぐらいの内容で更新されるとフォロワーとしても楽しいです。

⑪市民団体の活動支援のため、更に地域の自治体や企業による人的、資金面の支援に向けた情報発信に務める。

⑫環境フェアや環境イベント（環境関連ポスター募集・展示、環境改善事例集で改善前後の写真などで比較）など環境関連のイベント情報の更なる充実を図る。

⑬SNS 弱者にも積極的な情報発信を。